

美の祭典 (1938)

FEST DER SCHONHEIT-OLYMPIA TEIL II

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 ドイツ

色彩 B&W

時間 97分

初公開日 1940/

公開情報 劇場公開

【解説】

「民族の祭典」と共に“オリンピア”二部作として完結する作品であり、単独の評価は難しいが、第一部がギリシャ遺跡に始まり、聖火リレー、開会式と続き、競技は陸上のみ描いていたのと違い、この作品はオリンピック村のスケッチから様々な競技の模様を、リーフェンシュタール流の美学で切り取っており、ナチ宣伝の匂いは薄い。しかし、競技を見てはご満悦の“総統”の姿が映し出される様はゾツとしめない。それだけで充分プロパガンダととれる。そして、リーフェンシュタールのカメラ・アイ、その狂熱的な古典美の肉体礼賛こそが、病的な健康主義のナチズムの基層であり、陶然と眺めさせられ、次の瞬間には胸クソ悪さが込み上げる。映画をして切り離してみることを許さない何かがそこにはあるのだ。

【クレジット】

監督 レニ・リーフェンシュタール Leni Riefenstahl

撮影 ウィディ・ジールケ

音楽 ヘルベルト・ヴィント Herbert Windt